

	転倒	転落	転倒・ 転落の 別 不 明
クラス1：傷害なし	70	15	4
クラス2：軽度の傷害（ひっかき傷、打身等、簡単な治療の対象）	21	3	0
クラス3：出血、レントゲン検査で異常がないが、経過観察等、 検査が伴うもの。	1	1	0
クラス4：重度の傷害（骨折）	1	1	0
クラス5：死亡	1	0	0
無回答	0	0	0
合計	94	20	4

2. 患者属性

(1) 性別・年齢

A) 転倒

男性が 55 件、女性が 39 件である。

B) 転落

男性が 10 件、女性が 10 件である。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
男性	55	10	3
女性	39	10	1
無回答	0	0	0
合計	94	20	4

①年齢層別

年齢別にみると、「75～79 歳」が転倒・転落をあわせて 36 件、「70～74 歳」が転倒・転落をあわせて 20 件の順で多くなっている。平均年齢は 71.6 歳、最年長者は 90.0 歳、最年少者は 27.0 歳である。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
60歳未満	19	3	0
60～64歳	3	2	0
65～69歳	10	0	0
70～74歳	13	7	0
75～79歳	28	5	3
80～84歳	6	1	1
85歳以上	15	2	0
無回答	0	0	0
合計	94	20	4

②男女・年齢層別

<男女・年齢層別 転倒>

	合計	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
男性	55	11	2	7	10	18	2	5	0
女性	39	8	1	3	3	10	4	10	0
全体	94	19	3	10	13	28	6	15	0

<男女・年齢層別 転落>

	合計	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
男性	10	2	2	0	4	2	0	0	0
女性	10	1	0	0	3	3	1	2	0
全体	20	3	2	0	7	5	1	2	0

(2) 身長・体重・BMI

身長・体重の双方が記入されているケースについて、BMIを算出した。最大値は31.0、最長値は13.8で、平均が20.8であった。

A) 転倒

20以上22未満が16件、18以上20未満が11件、15以上18未満が9件、15未満が2件で、比較的BMIが小さいケース（骨密度が小さく、転倒による骨折等のリスクが高いと考えられるケース）がみられた。

B) 転落

20以上22未満が3件、18以上20未満が1件、15以上18未満が5件、15未満が1件で、転倒と同様に、比較的BMIが小さいケース（骨密度が小さく、転倒による骨折等のリスクが高いと考えられるケース）がみられた。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
30以上	2	0	0
25以上30未満	8	0	0
22以上25未満	10	2	0
20以上22未満	16	3	1
18以上20未満	11	1	1
15以上18未満	9	5	0
15未満	2	1	0
無回答	36	8	2
合計	94	20	4

①高齢者の男女・年齢層別 BMI

65 歳以上の高齢者について、男女別に前期高齢者（65 歳以上 74 歳）と後期高齢者（75 歳以上）に分けて、BMI の分布をみると、BMI15 未満で転倒をしている例（男性 65 歳以上 74 歳：1 件）があるほか、転倒・転落ともに BMI15 以上 18 未満の例も発生している。

<65 歳年齢層・男女別 BMI：転倒>

	合計	30以上	25以上 30未満	22以上 25未満	20以上 22未満	18以上 20未満	15以上 18未満	15未満	無回答
男性									
65歳以上74歳未満	16	0	0	2	2	1	4	1	6
75歳以上	25	1	1	4	3	1	0	1	14
女性									
65歳以上74歳未満	6	0	0	1	2	1	1	0	1
75歳以上	24	1	2	3	5	2	2	0	9

<65 歳年齢層・男女別 BMI：転落>

	合計	30以上	25以上 30未満	22以上 25未満	20以上 22未満	18以上 20未満	15以上 18未満	15未満	無回答
男性									
65歳以上74歳未満	4	0	0	0	0	0	2	0	2
75歳以上	5	0	0	0	0	1	1	0	3
女性									
65歳以上74歳未満	3	0	0	1	0	0	0	0	2
75歳以上	7	0	0	1	2	0	2	0	2

(3) 入院開始日から発生日までの日数

転倒・転落発生日を入院開始日から起算すると、0日（入院当日）当日の転落が1件あったほか、入院して1～3日目での転倒が9件、転落が2件発生している。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
0日（入院）	0	1	1
1～3日	9	2	0
4～7日	9	3	0
8～14日	20	2	1
15～30日	27	3	1
31日以上	21	6	1
無回答	8	3	0
合計	94	20	4

(4) 退院予定の有無

退院予定が「ある」ケースが転倒・転落をあわせて（転倒・転落の別不明を含む）23件、「ない」ケースが転倒・転落をあわせて（転倒・転落の別不明を含む）82件だった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
あり	18	4	1
なし	67	13	2
無回答	9	3	1
合計	94	20	4

(5) 主な治療実施日から転倒・転落発生日までの日数

手術や抗がん剤の投与等、主な治療の実施日から、転倒・転落発生日の日数をみると、「1～3日」の転倒が7件、「4～7日」の転倒が8件あった。また、主な治療の実施日から「0日」（当日）の転落が1件、「4～7日」の転落が1件あった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
0日	0	1	0
1～3日	7	0	1
4～7日	8	1	0
8～14日	4	2	0
15～30日	7	1	0
31日以上	9	2	0
無回答	59	13	3
合計	94	20	4

3. 患者の状態の詳細

(1) バイタル

調査票への記入が少なかったため、割愛する。記入が少なかった理由としては、カルテからの転記が必要なことが考えられる。

(2) 薬剤使用

睡眠剤、鎮痛剤等、薬剤の使用についてみると、転倒・転落（転倒・転落の別不明も含む）をあわせて、88件のケースで何らかの薬剤が使用されていた。

A) 転倒

94件のうち、70件で薬剤が使用されており、睡眠剤が27件、鎮痛剤が19件、降圧・利尿剤が15件だった。

B) 転落

20件のうち、15件で薬剤が使用されており、睡眠剤が8件、降圧・利尿剤が5件、鎮痛剤が2件だった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	16	3	1
あり(薬剤は複数回答)	70	15	3
睡眠剤	27	8	1
鎮痛剤	19	2	1
降圧・利尿剤	15	5	1
血糖降下剤	4	1	1
抗パーキンソン薬等	4	0	0
向精神薬	3	0	0
薬剤の種類 無回答	15	4	1
無回答	8	2	0
合計	94	20	4

①薬剤・男女別 転倒・転落の発生時間

睡眠剤を使用している場合に、午後10時～午前0時、午前0時～午前4時に転倒転落の発生が複数件あった。件数が少ないため、傾向として明確に読み取ることはできないが、薬剤が誘因となっている可能性がある。

<転倒>

	全体	午前 4時 ～午 前6 時	午前 6時 ～午 前8 時	午前 8時 ～午 前12 時	午前 12時 ～午 後2 時	午後 2時 ～午 後4 時	午後 4時 ～午 後6 時	午後 6時 ～午 後8 時	午後 8時 ～午 後10 時	午後 10時 ～午 前0 時	午前 0時 ～午 前4 時	無回 答
鎮痛剤－男性	14	0	4	2	1	1	1	0	2	1	2	0
鎮痛剤－女性	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0
睡眠剤－男性	17	1	4	0	1	0	1	0	0	3	7	0
睡眠剤－女性	10	2	2	1	2	0	1	0	0	0	2	0
向精神薬－男性	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
向精神薬－女性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
降圧・利尿剤－男性	6	0	2	1	0	1	0	2	0	0	0	0
降圧・利尿剤－女性	9	0	2	0	2	1	0	2	0	0	2	0
血糖降下剤－男性	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
血糖降下剤－女性	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
抗パーキンソン薬等 －男性	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0
抗パーキンソン薬等 －女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答*	39	4	5	3	2	5	3	3	4	2	7	1
合計	94	7	16	7	7	10	7	7	7	5	20	1

<転落>

	合計	午前 4時 ～午 前6 時	午前 6時 ～午 前8 時	午前 8時 ～午 前12 時	午前 12時 ～午 後2 時	午後 2時 ～午 後4 時	午後 4時 ～午 後6 時	午後 6時 ～午 後8 時	午後 8時 ～午 後10 時	午後 10時 ～午 前0 時	午前 0時 ～午 前4 時	無回 答
鎮痛剤－男性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
鎮痛剤－女性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
睡眠剤－男性	4	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0
睡眠剤－女性	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
向精神薬－男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
向精神薬－女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
降圧・利尿剤－男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
降圧・利尿剤－女性	5	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0
血糖降下剤－男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血糖降下剤－女性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
抗パーキンソン薬等 －男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗パーキンソン薬等 －女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答*	9	1	1	1	0	0	0	0	2	1	3	0
全体	20	2	3	1	0	0	0	1	4	4	5	0

*この無回答には、性別が無回答（不明を含む）場合と、薬剤の使用がない非該当の場合、薬剤の使用はあるものの、種別が無回答（不明を含む）場合がある。また、使用している薬剤は複数回答である。したがって、「全体」は、各層の値の合計に一致しない場合がある。

(3) 認知・理解力の有無

A) 転倒

58件について認知・理解力の問題があり、「理解力低下等」24件、「不穏行動」8件、「痴呆」5件であった。

B) 転落

14件について認知・理解力の問題があり、「理解力低下等」5件、「不穏行動」2件、「痴呆」4件であった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	35	5	0
あり（内容は複数回答）	58	14	4
理解力低下等	24	5	3
不穏行動	8	2	1
痴呆	5	4	1
無回答	26	4	1
無回答	1	1	0
合計	94	20	4

(4) 感覚器に関する障害

A) 転倒

認知・理解力に問題があったのが42件であった。

B) 転落

認知・理解力に問題があったのが10件であった。

なお、本設問での視力の問題は、近視や老眼で眼鏡をかけているケースも含まれる。聞き取り調査の結果では、白内障等の疾病による障害は、限定的だった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	49	8	2
あり	42	10	1
視力	35	9	1
聴力	11	3	0
無回答	3	2	1
合計	94	20	4

(5) 運動機能に関する問題

A) 転倒

何らかの運動機能障害がありケースが 74 件あり、しびれが 65 件、筋力低下が 11 件、麻痺が 7 件だった。

B) 転落

何らかの運動機能障害がありケースが 16 件あり、しびれが 14 件、筋力低下が 3 件、麻痺が 1 件だった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	15	4	0
あり (内容は複数回答)	74	16	3
筋力低下	11	3	1
麻痺	7	1	0
しびれ	65	14	3
無回答	5	0	1
合計	94	20	4

(6) 失神・けいれん・脱力発作

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	77	12	1
あり	8	4	2
無回答	9	4	1
合計	94	20	4

(7) 過去の転倒・転落経験

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	50	15	0
あり	40	3	4
無回答	4	2	0
合計	94	20	4

なお、本調査期間にも、複数回にわたって、転倒・転落している例があった。多い患者では、調査期間中に4回の転倒・転落を起こしていた。

回数	人数
2回	11名
3回	3名
4回	1名

(8) 転倒・転落の傷害リスク

転倒・転落による傷害リスクについては、「骨密度が低い」「出血傾向がある」等の予測がされていたケースがあった。

ただし、「その他」には、「転倒・転落がある」「痴呆がある」等と書かれていたものが多かった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	43	15	2
骨密度が低い	5	0	0
出血傾向	6	1	1
その他	40	4	1
無回答	0	0	0
合計	94	20	4

(9) 治療目的の装着物

A) 転倒

治療目的の装着物がある例では、「点滴関係」が最も多く 33 件、次いで「モニター」7件、「ドレーン」が8件であった。

B) 転落

治療目的の装着物がある例では、「点滴関係」が最も多く 2 件、次いで「モニター」4件、「ドレーン」が2件であった。

ただし、転倒・転落の経緯についての記述をみる限り、治療目的の装着物が、誘因となっているケースは見られなかった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
なし	45	9	2
点滴関係	33	2	0
モニター	7	4	0
ドレーン	8	2	1
その他	5	3	0
無回答	6	5	1
合計	94	20	4

(10) ナースコール

A) 転倒

「適切に利用できない」という回答が「適切に利用できる」を上回り、51 件に達している。

B) 転落

「適切に利用できる」という回答が9件だったのに対して、「適切に利用できない」という回答が11件に達した。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
適切に利用できる	37	9	1
適切に利用できない	51	11	2
無回答	6	0	1
合計	94	20	4

①ナースコールの適切な利用の可否別 認知・理解力の問題

また、ナースコールが適切に利用できるかについて、認知・理解力の問題の有無との関係でみると、以下のとおりである。

A) 転倒

「ナースコールを適切に利用できる」ケースの中にも、「認知・理解力に問題がある」ケースが8件あった。また、「ナースコールを適切に利用できない」人の中に、逆に「認知・理解力に問題がない」ケースが4件あった。

B) 転落

「ナースコールを適切に利用できる」ケースの中にも、「認知・理解力に問題がある」ケースが7件あった。また、「ナースコールを適切に利用できない」人の中に、逆に「認知・理解力に問題がない」ケースが3件あった。

<転倒>

	合計	認知・理解力の問題						無回答
		なし	あり	痴呆	不穏行動	理解力低下	内容無回答	
全体	94	35	58					1
適切に利用できる	37	29	8	0	0	3	5	0
適切に利用できない	51	4	46	5	7	18	20	1

<転落>

	合計	認知・理解力の問題						無回答
		なし	あり	痴呆	不穏行動	理解力低下	内容無回答	
全体	20	5	14					1
適切に利用できる	9	2	7	1	2	1	3	0
適切に利用できない	11	3	7	3	0	4	1	1

②転倒・転落に至った患者に対するナースコール指導

本調査では、転倒・転落に至った患者に対する対策を記述してもらったが、文中には「ナースコールの徹底」「ナースコールの指導」といった記述が目立った（「ナースコール」が対策に含まれていた事例：30件）。なかには、認知・理解力に問題がある患者に対して、ナースコールを押すように繰り返し説明がされている例もあった。

○認知・理解力に問題がある患者にナースコールが対策として記述されていた例

- ・ナースコールをしてもらうように伝える。
- ・離れる時は声をかけてもらうように伝える。
- ・ナースコールを押すよう指導しておくべきであった。
- ・ナースコールの説明をしっかりと行う。
- ・トイレ時はナースコールを押すよう説明を随時していく。
- ・夜間歩行時にはナースコールを押すよう、再度説明する。
- ・歩行は禁止し、トイレへ行きたい時はナースコールをするように説明する。
- ・繰り返しその都度説明して注意を促す。
- ・ナースコールを押さないで行動する患者に対して、どう予防すればよいのか。

4. 患者の運動・持久能力

患者と療養環境の適合性をみるため、以下の項目について、患者の運動・持久能力をみた。

- ・腰上げ動作
- ・SLR (Straight leg raising) : 大腿四頭筋の筋力評価。仰向けに寝た状態で、足を上げる動作。
- ・起居動作能力 (立ち上がり、立位保持、歩行、起き上がり、座位保持)
- ・端座位
- ・立ち上がり方
- ・移動補助具の使用

なお、これらの項目については、調査実施前の予測に反して、回答率が高く、また「確認していない」という回答も少なかった。このことから、現場の看護師たちが、患者の運動・持久能力をよく観察していることが明らかになった。

(1) 腰上げ動作

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
できた	71	13	2
やや困難	13	3	1
できなかった	2	1	0
確認していない	6	2	1
無回答	2	1	0
合計	94	20	4

(2) SLR

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
できた	38	10	1
やや困難	29	2	1
できなかった	5	2	0
確認していない	20	5	2
無回答	2	1	0
合計	94	20	4

(3) 起居動作能力：項目別

<転倒>

	合計	自立	見守り	一部介助	全介助	無回答
立ち上がり	94	45	20	23	3	3
立位保持	94	39	24	21	6	4
歩行	94	28	26	19	16	5
起き上がり	94	54	12	23	2	3
座位保持	94	57	16	13	5	3

<転落>

	合計	自立	見守り	一部介助	全介助	無回答
立ち上がり	20	9	5	3	1	2
立位保持	20	9	4	3	2	2
歩行	20	6	3	4	4	3
起き上がり	20	11	3	4	0	2
座位保持	20	11	2	4	1	2

(4) 起居動作能力：スコア別

上記の起居動作能力5項目を、以下のとおりスコア化して合計点でみた。

- ・自立 : 1点
- ・見守り : 2点
- ・一部介助 : 3点
- ・全介助 : 4点

したがって、合計点が高いほど、介助の必要性が高くなる。

A) 転倒

5項目すべて「自立」（5点）の人は26件、全てについて「一部介助」「全介助」の人が10件（うち、全て「全介助」（20点）が2件）であった。

B) 転落

5項目すべて「自立」（5点）の人は6件、全てについて「一部介助」「全介助」の人が1件であった。

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
5点	26	6	0
6～10点	37	5	0
11～15点	18	6	1
16～20点	10	1	2
無回答	3	2	1
合計	94	20	4

①ナースコールの適切な利用の可否別 起居動作能力（スコア）

A) 転倒

ナースコールが適切に利用できるかどうかと、起居動作能力の点数の状況を見ると、「適切に利用できない」人の中に、「11～15点」が13件、「16～20点」が7件あった。一部には介助を必要とする動作があるものの、ナースコールが適切に利用して介助を呼ばずに動いてしまう可能性がある。

<転倒>

	合計	5点	6～10点	11～15点	16～20点	無回答
適切に利用できる	37	17	12	5	3	0
適切に利用できない	51	7	24	13	7	0
全体	94	26	37	18	10	3

B) 転落

ナースコールが適切に利用できるかどうかと、起居動作能力の点数の状況を見ると、「適切に利用できない」人の中に、「11～15点」が3件、「16～20点」が1件あった。一部には介助を必要とする動作があるものの、ナースコールが適切に利用して介助を呼ばずに動いてしまう可能性がある。

<転落>

	合計	5点	6～10点	11～15点	16～20点	無回答
適切に利用できる	9	5	1	3	0	0
適切に利用できない	11	1	4	3	1	2
全体	20	6	5	6	1	2

② 認知・理解力の問題との関係

A) 転倒

認知・理解力の問題との関係を見ると、認知・理解力に問題がありながらも、起居動作能力の点では、全て「自立」している人（合計点5点）は11件、反対にほぼ全てに介助を要する人（「一部介助」または「全介助」合計点16～20点）は、9件であった。

<転倒>

	合計	5点	6～10点	11～15点	16～20点	無回答
(認知・理解力の問題) なし	35	15	15	4	0	1
(認知・理解力の問題) あり	58	11	22	14	9	2
(認知・理解力の問題の有無) 不明	1	0	0	0	1	0

B) 転落

転倒と同様に、認知・理解力の問題との関係を見ると、認知・理解力に問題がありながらも、起居動作能力の点では、全て「自立」している人（合計点5点）は4件あった。

<転落>

	合計	5点	6～10点	11～15点	16～20点	無回答
(認知・理解力の問題) なし	5	2	1	1	0	1
(認知・理解力の問題) あり	14	4	3	6	0	1
(認知・理解力の問題の有無) 不明	1	0	0	0	1	0

(5) 端座位

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
手を使わずに座り直しができる	47	8	0
手を使わずに座り直しができない	32	8	1
確認していない	11	1	2
無回答	4	3	1
合計	94	20	4

A) 転倒

端座位の可否と、転倒の発生場所をみると、端座位ができない人について、「ベッド周り」での転倒が 21 件、「病室付トイレ」が 2 件、「病棟トイレ」が 6 件だった。

B) 転落

端座位の可否と、転倒の発生場所をみると、端座位ができない人について、「ベッド周り」での転落が 7 件だった。

<転倒>

	合計	ベッド周り	病室付トイレ	病室内	廊下	病棟トイレ	その他	無回答
手を使わずに座り直しができる	47	24	5	3	7	2	6	0
手を使わずに座り直しができない	32	21	2	0	0	6	3	0
確認していない	11	6	2	1	0	2	0	0
全体	94	52	9	4	9	11	9	0

<転落>

	合計	ベッド周り	病室付トイレ	病室内	廊下	病棟トイレ	その他	無回答
手を使わずに座り直しができる	8	7	0	0	0	1	0	0
手を使わずに座り直しができない	8	7	0	0	0	0	0	1
確認していない	1	1	0	0	0	0	0	0
全体	20	18	0	0	0	1	0	1

(6) 立ち上がり方

	転倒	転落	転倒・転落の別不明
支えなしで立つ	47	9	0
介助者を引っ張りながら立つ	24	1	1
介助者を押しながら立つ	12	4	1
できない	5	2	0
確認していない	3	1	1
無回答	3	3	1
合計	94	20	4

A) 転倒

支えなしで立つケースでは、「ベッド周り」が25件、「廊下」が7件となっている。「介助者を引っ張りながら立つ」ケースでは、「ベッド周り」が16件、「病室付トイレ」が2件、「病棟トイレ」が4件である。

B) 転落

支えなしで立つケースでは、「ベッド周り」が8件となっている。

<転倒>

	合計	ベッド周り	病室付トイレ	病室内	廊下	病棟トイレ	その他	無回答
支えなしで立つ	47	25	5	1	7	2	7	0
介助者を引っ張りながら立つ	24	16	2	1	1	4	0	0
介助者を押しながら立つ	12	3	2	2	0	3	2	0
できない	5	4	0	0	0	1	0	0
確認していない	3	3	0	0	0	0	0	0
全体	94	52	9	4	9	11	9	0

<転落>

	合計	ベッド周り	病室付トイレ	病室内	廊下	病棟トイレ	その他	無回答
支えなしで立つ	9	8	0	0	0	1	0	0
介助者を引っ張りながら立つ	1	0	0	0	0	0	0	1
介助者を押しながら立つ	4	4	0	0	0	0	0	0
できない	2	2	0	0	0	0	0	0
確認していない	1	1	0	0	0	0	0	0
全体	20	18	0	0	0	1	0	1